

農家のきき込みに歩いていた。でも、最近では何といっても、あのメッシュ $\frac{1}{2}$ 万5千分の1地形図の土地利用と、松井法で計測する傾斜との関係等々。私共の学生時代には大変手間がかかって、とてもとてもやりきれない作業だったのに、各種の計算機が実用化してきた今日、まさに時代の脚光を浴びている。日本列島を四角に区切らなければ本当に何も判らないと云いたげに、方々の官庁では、網目法でいろいろな縮尺の主題図を大量に処理している。6色も8色もの多色刷りのメッシュの図や、コンピューター・マップを見かけるにつけ、つつい松井勇先生やお茶大の卒業生諸姉を思い出すきようこのころ；松井先生パンザイ $\frac{1}{2}$ (8回生)

松井先生のこと

村井妙子

松井先生がこのたび退官されます。そして、それは又うす暗い廊下に面した研究室から出ていかれることでもあります。本と標本しかない殺風景とも言える部屋と松井先生とは、私たちにとってはきってもきれないものでした。私たちは先生の部屋へ口頭の試験を受けるために緊張して入りました。又卒論などで何かお聞きするために入ると、たいていは毛布をひざにかけてチョココンと机に向っていらっしゃいました。

入学して早速、先生からは気候学を学びました。8時半きっちりに始まり、百分みっちり続く授業は、朝寝坊でルーズな私には少々苦痛でした。しかし授業をさぼると百分の授業のはずが不思議にも、友人のノートをうつさせてもらうと百二十分位はかかるので、これは出席した方が得という計算で、又ふうふう学校へ行ったものです。先生の授業は夏休みの後などは筆記で手が痛くなります。休みの間にペンを持つ筋力がおとろえて、松井先生向きの手になるまでには1週間位かかるのです。テストといえば一夜づけではとても追いつきません。先生と会うと点数と顔が二重うつしとなり、こそこそしていました。要するに私にとっては少々煙たい先生でした。更に皆の話を総合すると、世俗のことには丸で関心がない。先生のかよっている都電の番号を知らない。何々についてもそれは何ですかといわれた。等々およそ僧侶か仙人のようで、ますます近よりがたかったのです。そしてそれきり卒業してしまったら松井先生の印象はそのままだったでしょう。卒業式も間近かになって私は松井先生の紹介で自由学園で教えることになりました。自由学園では松井先生はたしかもう30年以上は教えて居られます。新米の私が1年間の授業の報告をしますと、それでいいでしょうというだけでただ黙ってみていて下さいました。学問一筋でその他のことには関心全くなしと思っ

ていた先生でしたが、案外ちゃんと見るものは見ているのだなあと思うことがたびたびでした。そしてお会いするとあたたかさや落ちつきが感じられ、心がなごやかになります。生徒の間は勝手なもので、先生の一面しかわかりませんでした。私は卒業後も年に2度位ですがお会いすることができ、又恩師と心から思える先生に出会えて本当によかったと思っています。（12回生）

松井先生との一年間

佐橋美智子

私に、今までに本当によかったと思うことが二つある。一つは、お茶大に学んだ一年間である。昭和39年度専攻科の一年間程、大学で学ぶことの楽しさを味わったことはなかった。一日、一日をあれほど大切にすることもなかったように思う。今でも、あの時を思い出すたびに、充実感で満たされてくる。そして、その一年間は松井先生と過ごした日々でもあった。

入学早々、渡辺光先生から、論文指導は松井先生から受けられるように、と言い渡された。第一印象の松井先生は、みるからに研究の虫、はたして私は、大丈夫やっていけるだろうか。早速、松井先生の研究フィールドである那須野原扇状地の集落を論文のテーマとし、先生の研究室で指導を受けることになった。それと同時に、お茶大地理学科の充実したカリキュラムに感心した私は、専攻科の講義と平行して、2・3・4年生のいくつかの講義も聴くことにし、その上、教職の単位まで取得することにしたので、スタートから忙しい毎日となった。

最初の頃、松井先生の前では、身も心も緊張した。5月だったと思う。先生の目の前で色鉛筆で地図の作業をしていた際、肘の下の汗で、色がよけいなところにまで汚くついてしまった。「地図を汚してはいけない。ハンカチでも手の下に置くぐらいの心づかいがなければ、だめですよ」ときびしい語調で注意された時は、冷汗が出た。

夏休みに入る時、先生は「ずっと研究室に来ているから、いらっしゃい」と、心よく私を受け入れてくださったので、長い夏休みの間、ほとんど毎日研究室に通った。この時は朝から夕方まで頑張ったので、つい5日間ほど休みをとって、富士山に登ったり、海に行ったり、映画を何本もむやみにみたりして遊びにも没頭した。

はじめは、とっつきにくくて、こわい先生と思ったが、松井先生のきびしさと親身な指導に、私は加速度的に研究が楽しくなっていった。そしてまた、各先生方の講義も素晴らしく、渡辺先生の愉快な話や友だちも増えて、研究以外にもお茶大の生活は楽しくなっていった。